

伊東コレクション

特別展 古玩の世界

会期 昭和61年12月9日(火)～昭和62年1月25日(日)

第一会場 (地下1階陳列室)

第二会場 (2階特別陳列室)



小井戸茶碗 銘 松風

講演会

12月13日(土)午後2時～「古玩趣味雑感」

日本陶磁協会理事 伊東祐淳氏

1月15日(祝)午後2時～「模倣と創造—18世紀を中心とする陶磁意匠の変革—」

根津美術館学芸課長 西田宏子氏

渋谷区立松濤美術館

本展は、渋谷区在住で日本陶磁協会理事、伊東祐淳氏が多年にわたり情熱を注いで蒐集された所蔵品のなかから、抹茶・煎茶道具を中心に約120点陳列いたします。

伊東氏が、「ありきたりの鑑賞の規準を外に置いて、流行などにかかわりなく、魅力を感じたもの、また、将来にも使ってやりたいもの等、脳裡から去り難いもののみを拾いあげた」といわれるコレクションには、高遠な知識とあくことのない探究心によってはぐくまれた高雅な“あじわい”の世界が展開されています。

観賞する者の心を和ませる「小井戸茶碗」や、「木米作 急須」などの雅品に加え、とくに江戸時代の地方の窯で焼かれた愛らしいやきもの等で構成された貴重なコレクションです。

抹茶



薩摩焼 火計茶碗

火計(火斗)とは、原料である陶土や、釉薬、技術などはみな朝鮮で、火ばかり、すなわち焼成だけ日本で行ったものをいう。火計にみられる御判がなく、胴に算木模様があり、火計としては珍しいものである。



信楽茶碗 銘 挽臼

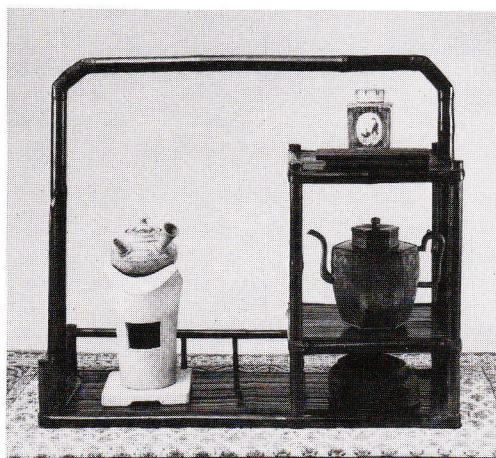
深筒で、やや厚手に轆轤びきされている。伏せて焼かれ、低く大振りのべた高台には自然釉がかかり、畳付に円形の、さらには高台脇に「イ」の手印がへら彫されている。

端正な趣の中にもだいたんな信楽の陶工の意匠がうかがえる茶碗である。

煎茶

煎茶は、湯をわかし、茶葉を煎じるため涼炉・湯瓶(ポーフラ・湯わかし)を用い、茶葉を投じる急須(急焼・茶瓶・茶だし)、それに茶碗(茗碗)、托子を基本用具として行なわれます。

京焼復興期の巨匠として名高い、青木木米の活躍した文化・文政の頃(1804-30)大流行し、木米の作品も大半は煎茶用の道具で、彼の名声を高める機縁となりました。



煎茶飾



木米作 黄交趾荒磯文急須

香 合

香合——その手の中におさまるような小さな器に、さまざまな創意を見出すことができます。

茶の湯では炭点前^{すみでまゑ}と称して客前で炭をつぐ所作があり、炭のつぎ終わったあとで香木・練香を灰中に埋めますが、その香をいれる器などにつかいます。



鎌倉彫蟹牡丹香合



唐物螺鈿香合

文房具

中国の文人が書斎で用いる筆・墨・紙・硯の類をさしますが、日本では、江戸時代の文人のあいだで中華趣味が流行して輸入品が珍重され、とくに煎茶の流行とその茶席における「文房具飾り」が中国文房具を珍重する風潮をいっそう高めました。



額川作 呉須赤絵印材



七官青磁筆架 唐物堆黒俱利飾筆 存星花鳥彫筆管

江戸時代後期の諸窯の意匠

幕末に近い文化・文政の頃から、日本の磁器を創始した伊万里などの肥前・有田磁器が全国的規模で進出し、またその市場競争に勝つため、日本の代表的窯業地である瀬戸・美濃・京都などでは陶器から磁器への生産転換が行われました。さらに、諸藩では、殖産事業のためおびただしい数の窯が開かれ、互いに競い、影響をおよぼしあいながら、さまざまな意匠がこめられた陶磁器を製作し、またひとつのみごとな陶磁文化を開花させたのです。



湖東焼 青磁金襴手香炉

湖東焼

現・滋賀県彦根の磁器。天保13年(1842)絹屋半兵衛の経営する民窯を上納させ井伊家の藩窯とした。茶陶・文具が多い。ことに15代藩主井伊直弼時代に優品を製した。

松濤美術館・平面図

■美術相談

美術作家を招き、皆さんの作品を見ながら、技術指導や相談を行います。美術史・美術図書の相談にも応じます。(油絵指導をご希望の方は絵の具、筆などをお持ちください)

★相談日時・相談員

12月21日(日) 午後1:00～4:00

洋画家 西嶋 俊親氏／版画 畑農 照雄氏

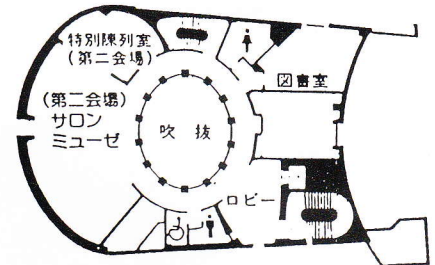
1月25日(日) 午後1:00～4:00

洋画家 遠藤 原三氏／日本画家 荒井 朝吉氏

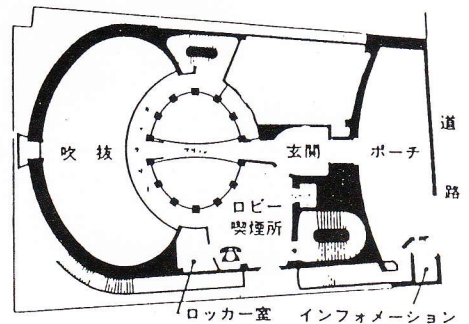
★申込方法 事前に電話で相談内容をお知らせください。

★料 金 入館料のみ

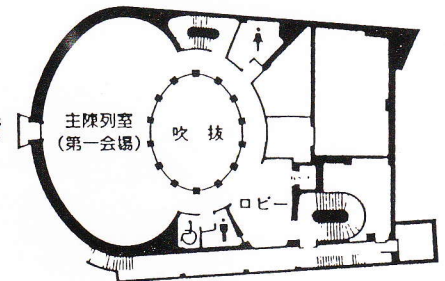
2階



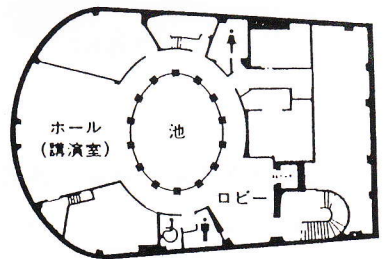
1階



地下1階



地下2階



■美術映画会

★12月21日(日) 午後2:00～3:00

「荒川豊蔵 志野・瀬戸黒」

「古九谷」

★1月25日(日) 午後2:00～3:00

「彫る 棟方志功」

「近世異端の画家 蕭白」

●会 期 昭和61年12月9日(火)～昭和62年1月25日(日)

●休 館 日 第2日曜日及び他の週の月曜日 祝日の翌日

12月/14日(日)・22日(月)・年末年始12月29日(月)～1月3日(土)

1月/5日(月)・11日(日)・16日(金)・19日(月)

●開館時間 午前9時～午後5時(ただし入館は4時30分)

●入 館 料

	個 人	団体(20人以上)
一 般	200円	160円
小中学生	100円	80円

案 内 図

